

【模範解答】

問1

思いもかけない偶然から生まれる新しい発見をセレンディピティと呼ぶが、この現象は日常的・心理的な場面でも経験され、創造的思考・新しい関心の芽へと繋がってくる。セレンディピティ現象は中心的関心よりも周辺の関心で活発に働くため、テーマを中心部に起き、いちずに考え意志の力だけで成し遂げるは賢明でなく、テーマを周辺部に起き、無意識の作用を活かしてセレンディピティを起こしやすくすることもときには重要になる。

(199字)

★以下に相当する趣旨の記述があるかチェック

- ①思いもかけない偶然から生まれる新しい発見をセレンディピティと呼ぶ（セレンディピティの説明）
 - ②日常的・心理的な場面でも経験する
 - ③セレンディピティ現象は中心的関心よりも周辺の関心で活発に働く（中心<周辺 の対立構造）
 - ④テーマを中心部に起き、いちずに考え意志の力だけで成し遂げるは賢明でない
 - ⑤テーマを周辺部に起き、無意識の作用を活かしてセレンディピティを起こしやすくすることも重要
- ※「教師も義務感の伴わない脱線を遠慮する必要はない」のくだりも加点の余地あり？

問2

筆者はセレンディピティの重要性を説いているが、私たちの目指す医師、とりわけ臨床の現場においてもそれは重要なのだろうか。

患者さんの健康を考えるときは、身体的な側面だけでなく、精神的・社会的な側面も含めて考えるのが理想的だ。そのため、患者第一の医療を達成するには、患者さんの望む治療方法や生活形態等を理解しなければならない。しかし、患者さんの誰しもが「自身がどうしたいか」を明確に把握しているわけではなく、自身の抱えている想いを新たに発見しなければならないこともあるだろう。

以上より、臨床の現場においても、患者さんの抱える本当の想いを引き出すためにセレンディピティは重要であるといえよう。例えば、雑談を交えたり、期間を空け色々な人と会話してもらったり、種々のイベントに参加してもらうことで、「私、本当はこういうのがしたいかも」「こう治療してほしいかも」という想いが見つかる可能性は大いにある。

(400字)

